



「人の集う島へ」Keep 3000!



にしな

西ノ島町

2014町勢要覧

Nishinoshima

隠岐・西ノ島へ 癒し旅&おいしい旅

私・山崎水穂はメル友の
活ちゃんに誘われて
初めて隠岐・西ノ島へ！
『島根の弁護士』作者の
あおき先生もつきそいです。



Nishinoshima にしのみ 西ノ島町



「人の集う島へ」Keep3000！

西ノ島町は、日本海に浮かぶ隠岐群島の中の一島一町で、昭和32年2月に浦郷町と黒木村が合併し誕生しました。

離島として厳しい地理的要因にありながら、美しい景観や恵まれた海洋資源を活用し、漁業・畜産・観光を基幹産業としたまちづくりを進めております。

現在わが国は、人口減少や少子高齢化の進行、地球規模での環境問題の深刻化など厳しい社会情勢に直面しています。

本町においても、基幹産業低迷、若者の島外流出、少子・高齢化の進行による人口減少が続いており、依然として厳しい状況下にあります。

平成25年度からスタートした第5次西ノ島町総合振興計画では、こうした内外の諸情勢に十分配慮することを基本に、本町の持続的な発展には何よりも「人の力」が必要だという認識のもと、目指すべき将来像を「人の集う島へ」に定めました。

この計画に基づき、みんなで助け合い心身ともに健やかな「夢と笑顔のあふれるまち、西ノ島」をめざしています。

また、隠岐が待望の世界ジオパークに認定されたことを契機に、情報発信やガイド養成等に積極的に取り組み、新たな観光振興の拠点地域として交流人口の拡大を図るとともに、豊かな自然環境を保全し、町民の皆さんが住んでよかったと思える西ノ島町をつくりたいと考えています。

この町勢要覧では、世界ジオパークに認定された美しい自然、伝統ある歴史・文化、人々の営み等を紹介しています。ぜひ西ノ島町のさまざまな魅力をご覧ください。

本冊子を通し、西ノ島町をご理解いただくとともに、さらなる町勢発展の一助となれば幸いです。

西ノ島町長 升谷 健

基本構想 人の集う島へ Keep3000 ～島の魅力を活かす3つの方策～
1 資源を活かして働く 3 自然とともに暮らす
2 助け合い健やかに暮らす

町民憲章 The townsman charter

国賀の雄大な自然と豊かな海の資源は西ノ島の誇りです。私たちは、この美しいふるさとに生きることをよろこび、平和で明るい町づくりをめざし、この憲章を定めます。
(昭和62年11月3日制定)

- 1.美しい自然と歴史を大切に**文化の香りに満ちた町**をつくりましょう
- 1.明るく仲よく助け合い心身ともに健やかで**生きがいに満ちた町**をつくりましょう
- 1.清新な気概とたくましい創造力をもって産業をおこし**豊かさに満ちた町**をつくりましょう

位置、地勢

島根半島から北東へ約65km、日本海に浮かぶ隠岐諸島は大小180余りの島々から成り立つ群島型離島です。この中で人が住む島は西ノ島(にしノしま:西ノ島町)、中ノ島(なかのしま:海士町)、知夫里島(ちぶりじま:知夫村)、島後(どうご:隠岐の島町) の4つで、島後に対して西ノ島、中ノ島、知夫里島の3つをあわせて、島前(どうぜん)と呼び、大きく2群島に整理することができます。

西ノ島町は島前の3島のうち西ノ島を占め、1つの島で1つの町を形成しています。

気 候

西ノ島町は、対馬暖流の影響を受けて、日間気温差は比較的少なく、年間平均気温は14.0度と比較的温暖で降水量は年間総雨量1750ミリ、最大積雪量は22センチと山陰地方では極端に少なくなっています。

冬期は北西の季節風が強くなり、200～300mの山脈を背に内湾に面する大部分の集落は、しのぎやすくなっています。

通天橋(つうてんきょう)

海に大きくせり出した巨大な岩の架け橋。岩石の中央部が海蝕作用によってえぐりあげられたもので、大自然が創り出した造形の妙を見ることができます。約7kmにわたって粗面玄武岩の海蝕崖や海蝕洞が続き、国立公園に指定されている隠岐最大の景勝地、国賀海岸にある代表的な奇岩です。

Nishinoshima
にしノしま
西ノ島町



町 章

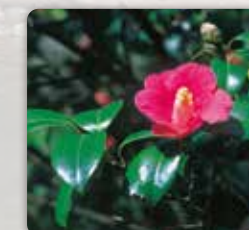
西ノ島町の地形を図案化し、調和のある発展を象徴、円は町民の融和と団結をあらわす。

町の木



【黒松】

町の花



【椿】



人と自然をつなぐ島 隠岐ジオパーク 2013.9.9 世界認定



ジオパークは、「大地の公園」と訳されています。
私たちが住む地球のプレート活動や火山活動によって造られた大地と、その大地の上に広がる生態系、そして、私たち人の営みである歴史や文化などのつながりを楽しく知ることができる場所です。言い換えれば、地球の仕組みを知ることができる場所なのです。

日本海に浮かぶ四つの有人島と180余りの無人島からなる隠岐。はるか3万年前にはすでに人が住み、石器時代は黒曜石の産地、中世は後醍醐天皇などの遠流の島、近世は北前舟の風待ち港として時代ごとに存在感を放ってきました。

こうした歴史と、日本形成が垣間見える大地、謎多き生態系が存在する隠岐は、世界的に見ても貴重な島。

平成25年9月9日には、「世界ジオパーク」に認定されました。



隠岐がジオパークと呼ばれているのは、目の前に広がる絶景や不思議な生態系、地元独特の文化から、大地がどうやって生まれたか、人と自然はどうつながっているかを、まるで探検するように学べるからです。さまざまな謎を解き明かすカギを、見つけに来てください。

《参考URL》
「人と自然をつなぐ島 隠岐世界ジオパーク」
<http://www.oki-geopark.jp/>



にしのみま

Nishinoshima

西ノ島町



働く。

1 資源を活かして働く

西ノ島町は、イカ・岩ガキ・サザエをはじめとした水産物に恵まれています。これらの資源を活用した西ノ島町ブランドの確立に向け、多様な主体の連携による特産加工品開発に取り組んでいます。



澄み切った海、おいしい魚介類、雄大な景観、四季折々に咲く花、たくさんの鳥の鳴き声。

西ノ島町には、豊かで美しい自然資源がたくさんあります。本町の産業や文化は、この豊かな自然資源によって育まれてきました。

西ノ島町には、この自然資源を活用した多くの「しごと」があります。これまでの「勤める」という働き方にとらわれることなく、自分のアイディアを活かしながら西ノ島町ならではの働き方を模索する。そのチャレンジする心を町も応援します。



自然資源を豊かで美しいままに次世代へ継承していくこと。それは、現代を生きる私たちに課せられた重要な使命です。

私たちは、資源を活かしながら西ノ島町らしい働き方を追求し、美しい自然を守り活かす取組を追求していきます。



健やか。

2

助け合い健やかに暮らす

西ノ島町では、「老いも若きも願いはひとつ いきいき 長生き 生涯現役」をスローガンとして、健康づくりに取り組んでいます。それは西ノ島町に住んでいる3,000人それぞれの人的資源こそ、西ノ島町の活力だからです。

その力が十分に発揮されるためには、皆が心身ともに健やかであることが何よりも大切です。



西ノ島町では一人でも多くの「育てたい!」を育むため、子育て世帯への支援充実、保育体制の充実、地域による子育て支援体制の構築に取り組んでいます。
私たちは、助け合いながら、心身ともに健康に暮らせる取組を追求していきます。



健康・医療。

西ノ島町の医療施設は、隠岐広域連合立隠岐島前病院を拠点に、浦郷診療所、へき地三度出張診療所、民間の歯科医院1箇所があります。また医師や福祉関係者等

による地域ケア会議等を通じて、保健・医療・福祉の連携体制のもと、町民の医療にあたっています。緊急時には、ドクターヘリ等による対応も行っています。





西ノ島町

自然。

摩天崖（まてんがい）

何十万年もの間、日本海の逆巻く風浪に削り取られてきた比類なきスケールの大断崖。

標高は257mにも及び、海蝕崖では日本一の高さを誇ります。

崖面には繰り返し流れて積み重なった溶岩の作るしま模様が見えます。



西ノ島町には、摩天崖や通天橋といった雄大で美しい自然景観のほか、地域固有の動植物により形作られた独自の生態系が今も息づいています。これらの豊かな自然環境は、度重なる火山活動や海面の上下運動によりもたらされました。また先人たちは、そこから得られる自然の恵みを活かしながら生活を営んできました。



この「大地の成り立ち・豊かな生態系・人々の営み」が今も色濃く残っていることが評価され、西ノ島を含む隠岐諸島は平成25年に「世界ジオパーク」に認定されました。

美しい自然環境を次世代へと継承していくため、自然と共生した暮らしを推進していきます。

3 自然とともに暮らす

赤尾展望所（あかおてんぼうじょ）

赤尾スカイラインの終点にある赤尾展望所からは、隠岐を代表する世界一級の景勝地、国賀海岸を一望にのぞむことができます。

西ノ島町の西海岸一帯は、約7kmにわたって粗面玄武岩の海蝕崖、海蝕洞が続いており、昭和38年（1963年）には、国立公園に指定され、特別保護区となっています。



明暗の岩屋（あけくれのいわや）

延長250mに及ぶ、自然が造り出した天然のトンネル（洞窟）です。狭い暗黒の世界を無事通り抜けると、そこにはコバルトブルーの海が迎えてくれます。

観音岩（ローソク岩）

国賀海岸の奇岩の中でもひととき細長く（海拔約40m）そびえ立っています。

海上からは、百済観音の姿にも見えることから「観音岩」とも呼ばれています。

西ノ島町の陸上からは、日が沈むところに、火が灯ったろうそくに見えることから「ローソク岩」とも呼ばれています。





しゅうはいら
十方拝礼

美田八幡宮で西暦奇数年の9月中旬の例祭で奉納されます。祭礼は「神の相撲」「獅子舞」「田楽」の3部で構成されます。

美田八幡宮に田楽が奉納されたという記録は天正18年(1590年)が最も古いものですが、口伝によると後白河法王時代に島に入ってきたといわれています。

このうち芸能として特徴をよく残している田楽は地元では「十方拝礼(しゅうはいら)」と呼ばれ、全国的に見ても屈指の芸能であるとして平成4年に国の重要無形民俗文化財に指定されました。

伝統文化



しやーらぶね
精霊船

町内の美田・浦郷地区に残る送り盆行事で毎年8月16日の早朝に行われます。

今から100～150年ほど前に西ノ島では5～6人が乗れるような大型の精霊船を各地区毎に共同で造るようになったといわれています。竹や木を骨組みに、麦わらを船体にし、帆柱を立て、帆には色紙で作られた無数の盆旗を結びつけたその姿は素朴なものです、人目を引きつける華麗さを持っています。



島前では7月になると各地で夏祭りが催されますが、その時奉納されるのが島前神楽です。

県の無形民俗文化財に指定されています。



おきどうぜんかぐら
隠岐島前神楽

日吉神社で西暦偶数年の10月に奉納される祭礼で「庭の舞」「神の相撲」「田楽」の3部で構成されます。

この庭の舞は今から800年前に近江国甲賀郡真野庄の領主であった真野宗源が戦乱を避けて、隠岐に逃れた際に伝わったものといわれています。

平成4年に国の重要無形民俗文化財に指定されました。



にわのまい
庭の舞



焼火神社
たくひめじんじや

平安時代から全国に海上安全の神として知られた神社です。焼火山の中腹にあり、明治以前には焼火山・雲上寺と称していました。一般的には焼火権現として知られています。平安中期の創建といわれ、社殿は大岩窟の中からせり出すように建てられています。平成4年に国の重要文化財に指定されました。



焼火権現
たくひごんげん

焼火権現は、「焼火神社」のご神体であり、海上安全の神として崇められています。「ゲゲゲの鬼太郎」で有名な水木しげる氏のデザインにより、別府港フェリーターミナルに設置されました。

©水木プロ

文化財

隔年(西暦奇数年)の7月最終の土日に行われる由良比女神社の大祭で数多くある島の祭の中でも最大規模のものです。

由良比女神社大祭
ゆらひめじんじやたいさい



由良比女神社
ゆらひめじんじや

「隠岐国一の宮」。延喜式神名帳に見える古社で漁業神、海上守護神として島内の信仰を集めています。鳥居が海中に立ち、その入江にイカの大群が押し寄せることで知られております。

黒木御所
くろきごしょ

別府港の東、湾に突き出た丘の上にあり、元弘2年、後醍醐天皇が配流になられ、約1年間住まわれたといわれる伝承の地で、島を代表する史跡となっています。丘の上には御所の史跡の他、天皇をまつる黒木神社があり、昭和33年に県史跡に指定されました。



帝祭
みかどまつり

後醍醐天皇が隠岐を脱出されたことにちなんで、黒木御所周辺を舞台に御所車行列や時代行列が練り歩きます。

鳥賊

イカのまちづくり

活イカ 活っちゃん
町の特産品である
イカをモチーフに
誕生しました。



由良比女神社にある「イカ寄せの浜」には、イカにまつわる伝説が数多く残っており、現在でもたくさんのイカが押し寄せる神秘的なところだ。

イカは町民にとってとても身近な存在ですので、イカを活かしたまちづくりに取り組んでいます。



イカのまちづくり／グルメ・特産品

6

サザエカレー

隠岐では昔貴重だったお肉の代わりに豊富に獲れるサザエを入れて食べるようになった。
サザエの風味たっぷり島のシーフードカレー。

えりやき鍋

もともと漁師たちが船上で食べていた賄食。シイラを唐辛子や玉ねぎを入れ甘辛く煮た鍋で、隠岐では郷土料理を取り入れた初めての観光食とされた。「えりやき」とは魚を「炒る」が方言で「える」になったもの。

メザシ

浦郷地区の特徴である山から吹き降ろす秋風が、天日干しの「めざし」作りに最適なため、浦郷産のメザシは品質の良さで有名です。

グルメ特産品

隠岐のいわがき

3月～6月が旬で、西ノ島は日本で初めて人工採苗による岩がきの養殖化に成功しました。岩がきは出荷前に滅菌海水処理を施し安全性を高めています。

アワビ

隠岐のアワビは極上品として、古来より朝廷に献上されていました。西ノ島では主に素潜り漁で漁獲され、貝殻はアクセサリに加工されるなど名産となっています。

暖流と寒流がぶつかる隠岐の近海は、魚介類の宝庫です。新鮮な魚介類を使ったグルメ・特産品をぜひお楽しみください。

島のお母さんが試行錯誤して完成させた西ノ島のご当地バーガー。野菜は西ノ島で採れたもの、パテは西ノ島で採れたアジやアゴ（飛び魚）、白イカのすり身を使用し、パンズも町内で焼き上げ、ソースも含め全て手作りのこだわりの一品。

おさかなスリーミーバーガー

サザエ

島では年間を通じて豊富に取れます。サザエの炊込みご飯はおふくろの味。

西ノ島町の行政

西ノ島町役場

「人の力」が主役となったまちづくりを進めることを第一に、豊かな資源を活かし、みんなで助け合い、心身ともに健やかな「夢と笑顔のあふれるまち、西ノ島」の実現に向けた住民サービスを提供します。



行政機構図

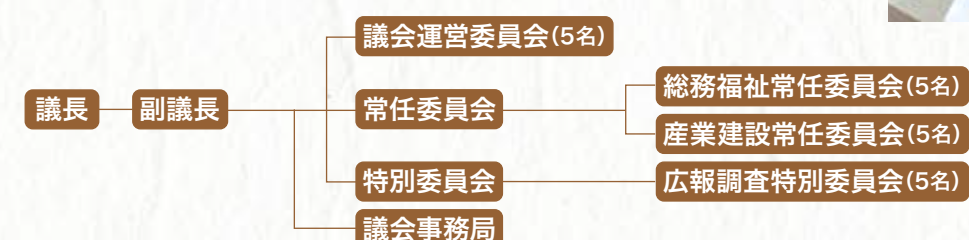


西ノ島町議会

町議会は、住民の代表として、西ノ島町をより豊かで暮らしやすい町にしていくために、町長が提案する予算、条例などの調整の重要な事柄を審議し、最終決定する大切な役割を担っています。



議会機構図



古代

隠岐は、古事記・日本書紀でみられるように国土生成の時より大八州の1つに数えられ、歴史的には古い島であるといわれています。上古には大陸間海上交通の要衝であり、孤島とはいえ、早くから開けた島であったので、古代国家の体制が確立すると共に島でありながら一国として扱われ、応神朝には隠岐国造が任ぜられました。



中世・近世

律令時代に隠岐は遠流の地に定められ、以来近世まで一貫して流刑の島として遠流刑に処せられた人々は数知れないといわれています。その中には中央の史上に顕れる知名度の高い名士や高官もあって、地域の文化や一般庶民の生活・風俗に及ぼした影響は大なるものがあったと思われます。

近世は、北前船の風待港として栄え、上方文化の影響を直接受けるなど流人の島としては文化的に比較的恵まれた環境であったといえます。

現代

西ノ島町は、昭和32年2月11日、国の画期的な町村再編成の線にそって、旧黒木村と旧浦郷町が合併した町で、隠岐の島町に次ぐ人口を有し、島前地区の産業、交通の中心地となっています。

それ以降漁業と観光・畜産の町として発展し、昭和38年には大山隠岐国立公園に指定され、隠岐を代表する景勝地、国賀海岸により広く知られています。



沿革



後醍醐天皇

隠岐焚火の社
初代歌川広重画



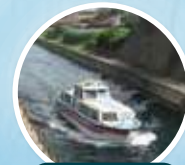
にしのみま 西ノ島町 Access



超高速船レインボージェット

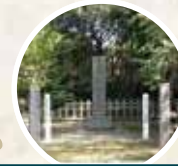


摩天崖



外浜海水浴場

船引運河



耳浦キャンプ場



西ノ島ふるさと館

別府港ターミナル

・航路

西ノ島町と本土間においては、フェリー3隻と高速船1隻が運航しています。

・内航船

島前3町村間においては、2隻の内航船が運航しています。



Access

【JR】●東京(新幹線)→岡山(伯備線)→米子…約6時間 ●大阪(新幹線)→岡山(伯備線)→米子…約2時間 ●福岡(新幹線)→岡山(伯備線)→米子…約7時間

【空路】●東京(羽田)→出雲…約90分 ●東京(羽田)→米子…約80分 ●大阪(伊丹)→出雲…約55分

【高速バス】●東京・大阪・神戸・京都・広島・岡山・福岡→松江もしくは米子

【高速船・旅客フェリー】●七類又は境港(フェリー)→西ノ島町・別府…2時間30分

●七類又は境港(超高速船)別府…1時間(直行便の場合)



フェリー見送り風景



発行／西ノ島町役場 企画・編集／西ノ島町総務課

〒684-0211 島根県隠岐郡西ノ島町浦郷534

TEL:08514-6-0101 FAX:08514-6-0683 e-mail:info@town.nishinoshima.shimane.jp